



1



2

あした 美術館へ

かつて特権階級だけが楽しんだ美術品鑑賞、今や誰でも名作を楽しめる時代に。美術館を使って新しい出会いを楽しんでいる人々もいる。

まず、note（ウェブсайт）に美術館や展覧会、学芸員の仕事などについてコラムを投稿する“ちいさな美術館の学芸員さん”。“アートという壮大な無駄があるからこそ人間らしく生きられると言ったら言い過ぎでしょうか？”と問う。

また、1926年に開館した日本で一番古い公立の東京都美術館では、2012年のリニューアルオープン

ンをきっかけに、お隣りの東京藝術大学と手を組み「とびらプロジェクト」を始めた。広く一般から募集した18歳以上の多様なアート・コミュニケーションータ、愛称「とびら」とともに、アートを介し誰もがフラットに参加できる対話の場、人々を結びつける活動を生み出している。熊谷香寿美さん（東京都美術館学芸員）と小牟田悠介さん（東京藝術大学特任助教）に話を聞いた。

大澤夏美さんからは、エッセイ「来館者とミュージアムをつなぐミュージアムグッズの魅力」が届いた。



3

- 1 学校プログラム、うえののそこから「はじまり、はじまり」 荒木珠奈展、東京都美術館
- 2 建築ツアー、東京都美術館
- 3 高齢者との鑑賞プログラム、東京藝術大学大学美術館 Photo：中島佑輔